

坂本内閣府特命担当大臣（地方創生） 記者会見要旨

日時：令和2年10月22日（木） 15:27 ～ 15:32

場所：首相官邸ロビー

（冒頭発言）

本日の諮問会議では国家戦略特別区域基本方針の一部変更について御議論を頂き、ご了承を得たところであります。

今回の変更では、まず、経済のデジタル化等の情勢変化や新型コロナウイルス感染症への対応の必要性等を踏まえ、国家戦略特区制度の目標として、「デジタルトランスフォーメーション」の推進、「新たな生活様式」の実現のための規制改革の推進などを新たに追加いたしました。

また、「スーパーシティ」構想の推進に向けて、「スーパーシティ」区域の指定基準、基本構想に関する住民等の意向の反映や確認の方法などを定めるとともに、「スーパーシティ」におけるインフラの整備等に関係府省庁の事業を集中投資することなども規定いたしました。

有識者からは、スーパーシティ構想の迅速な実現、特区の規制改革の全国展開の推進などについて、御提言を頂きました。

総理の発言につきましては、先ほど、皆様にお聞きいただいたとおりでございます。私からは以上でございます。

（質疑応答）

問： 先ほどの総理のあいさつでも地域の課題に応じてスーパーシティを使ってほしいということでしたけれど、大臣としてこのスーパーシティをどのような期待を持たれているか教えていただけますか。

答： 今日、各委員からも出ましたけども、様々な規制について、これからは規制してきた側の説明が求められるというような御意見もございました。ですから、住民一体となって先駆的な取り組みとして新たな手法でスーパーシティを作り上げていく、大変重要な過程に入っていくというふうに思います。

問： 今後公募に向けて動き出すと思いますけども、何か所程度とか、そういう具体的な計画は今の段階でありますでしょうか。

答： 一応、5か所ということをお知らせしてきましたけども、公募を12月くらいから始める予定でありますけども、公募の状況等を見ながら、選定については考えていきたいということでございます。

問： 国家戦略特区では、以前、制度を利用して加計学園が獣医学部を申請した際に、その過程の透明性について問題になったことがございましたが、そうした経緯については、今後どのように踏まえていかれるお考えですか。

答： 今日の委員の発言の中では、加計学園の問題については、竹中議員が一言、加計学園の問題以来、少し役所が冷たくなったのではないかというような言い方をされました。しかし、このことにつきましては、これまでも繰り返しましたとおり、一点の曇りもないというようなことでお答えしておりますので、この加計学園の問題については一応の区切りはできているというふうに思っております。

問： 「役所が冷たくなった」というふうにおっしゃったのは、内閣府がこの制度についてあんまり、少し停滞状態になったと。

答： 色々な問い合わせに対して、ということだろうというふうに思います。それは委員の方の発言でしたので、私もその真意はちょっと測りかねます。

問： これまでの国家戦略特区の成功例、これを全国的に展開していくことを今後重点化していくというふうにありましたけれども、具体的にどういった都市のどういった事例を展開していくのでしょうか。

答： 特に国家戦略特区の中の養父市におきまして5年間企業の農地取得というようなことを進めてきて、中山間地域の農業がしっかりでき上がっているのではないかと、このことをやはり今後全国展開すべきではないかと、というような意見が複数の方から出ました。

問： ほかの事案は出なかったですか。

答： 養父市が一番多かったですね。他の具体的な事案というのはあまり出なかったというふうに感じます。

問： スケジュールについても議論されたとのことでしたけれども、今のところ公募と選定の時期それぞれいつ頃を目途にされていますか。

答： 公募がだいたい12月くらい、それから春頃に地域の選定としております。それを公表していきたいというふうに思っております。

(以上)